

社会医学研究会
2025 年度 活動報告書

目次

はじめのお言葉	3
ぬいぐるみ病院ボランティア	4
子ども食堂ボランティア	5
あけぼのほのぼの食堂ボランティア	6
寺塾	7
なかよし保育園ボランティア	8
レジニアクセサリーセクション	9
手話の会	10
学祭	11
あとがき	12

はじめのお言葉

これまで12年にわたり理事長兼学長として、当大学に日々愛情を降り注ぎつつ勤めあげてこられた細井裕司先生が、このたび2026年3月末日をもってその職をご退任されることとなりました。代わって、これまで医学部長として細井先生を支えてこられた嶋 緑倫先生が、その職を引き継がれることとなりました。時の流れは早く、実はこの嶋先生が社会医学研究会（通称：社医研）のクラブ顧問・前任であった事実を知らない、若いクラブメンバーが増えてきていると思いましたので、ここに記すこととしました。

嶋 緑倫先生からのお勧めで、嶋先生が小児科の教授職を退任された2020年4月に、この社医研のクラブ顧問を引き継ぎました。自分たちで病院や病院を取り巻く環境に関する問題点を話し合い、自分たちでできるボランティア活動を提案し、それを私たちのところに相談しに来る、主体性を持った活動的なクラブです。過去の活動内容には、疾病により長期に通学できない子供たちに対して、勉強をフォローしてあげたり、相談に乗ってあげたり。さぞかしご両親、ご家族も喜ばれたことでしょう。

医師や看護師の卵である社医研のクラブメンバーは、このようなクラブ活動を通して、医療従事者としての根幹にかかわる『おもいやり』を学ぶこととなります。そのような医大生たちが医師となり看護師となって医療現場に巣立っていく、奈良医大の将来は明るく希望に満ち溢れています。

是非、現役・社医研メンバーの後述記事をご覧ください、共有していただきたく思います。そして、今後とも社医研のボランティア活動を温かい目で見守ってくだされば幸いです。

なお、部活メンバーとの新歓・追いコンでの交流およびポリクリ総括のお写真は、奈良医大耳鼻科 Facebook にアップしています。ページをめくってご覧ください。

<https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnarnamed>

2026年3月

耳鼻咽喉・頭頸部外科学主任教授 北原 紘

ぬいぐるみ病院ボランティア

医学科 4年 垣本月海

ぬいぐるみ病院は、ぬいぐるみを「患者さん」に見立て、子どもたちにその保護者役を担ってもらい、学生が医師や看護師となってお医者さんごっこをする体験型の取組みです。本活動は、子どもたちが病院に対して抱く不安や恐怖心を少しでも和らげることや、自分自身の健康について興味を持つきっかけを提供することを目的としています。

本年度は、8月にひかり保育園、9月にイオンモール橿原で開催された奈良健康フェア、10月に大学祭にて活動を実施いたしました。ひかり保育園では、子どもたちが自分のぬいぐるみを持参して参加します。日頃から大切にしているぬいぐるみたちと診察体験を行うことで、より病院という存在を身近に感じてもらうことができました。子どもたちは、聴診器を用いて実際に心音を聞いたり、ぬいぐるみに注射をしたり、包帯を巻いたりといった診察体験を笑顔で楽しんでいました。診察後には、「手洗いうがいをきちんと毎日しているよ」、「診察が楽しかった」と声をかけてくれる子どもたちもおり、私たち学生にとっても大きな喜びとやりがいを感じる瞬間となりました。さらに、保護者の皆様からも、子どもたちが楽しく病院や健康について学んでいる様子を嬉しく感じているとの温かいお言葉を頂戴しました。子どもたちの視点に立った医療の在り方を考える貴重な学びの機会となりました。

最後になりますが、ひかり保育園の職員の皆様、保護者の皆様、奈良健康フェア及び大学祭関係者の皆様など、本活動に協力してくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。今後も、子どもたちが楽しく医療や健康について学び、主体的に考えるきっかけとなるよう、継続して活動に取り組んでまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

子ども食堂ボランティア

医学科 4年 佐野直樹

子ども食堂ボランティアは主にフードバンク大和高田さんが主催するひとり親世帯応援企画に学生ボランティアとして参加する活動です。周辺の高校生も一緒に参加してくれており、主催者様によると学生の団体がこのような子ども食堂に参加することは全国的にも珍しいことだそうです。昨年度は7/27(日)、12/21(日)、そして3/1(日)の計3回開催されたものに、学生ボランティアとしてたくさんの部員が参加してくれました。ボランティアでは各ブースの手伝いをしました。例えば食材ブースでは利用者の方に食材を渡す手伝いをしたり、工作ブースではおもちゃの作り方を実際に子どもたちに教える役になりました。また、ありがたいことに数年前から企画内に社医研が自由にできるブースをいただけることになり、前もって部員達とブース内容を考え当日に向けて準備をしました。季節に合わせた企画をすることを目指しており、例えば夏だとスイカ割りの擬似体験ができるブースを開いたり、春だとひな祭りに合わせたゲームが楽しめたりするようにしたこともあります。参加した子どもたちが楽しんでくれたのはもちろんのこと、保護者の方々も一緒に楽しんでいたり動画を撮って思い出にしてくれたりしていて、こちら側もとても嬉しい気持ちになります。

この活動は利用者の方と接することのできる貴重な機会であり、実際に参加してくれた部員からは、「子どもたちが元気いっぱいかわいかった」「実際の利用者が自分のイメージと違って驚いた」といった声を聞くことができました。これからも引き続き、多くの部員が参加して新たな発見をしてくれることを願っています。

最後になりますが、この場をお借りして参加を受け入れてくださっているフードバンク大和高田の皆様には厚く感謝を申し上げます。今後もよろしく願いいたします。

あけぼのほのぼの食堂ボランティア

医学科 3 年 上山美花

あけぼのほのぼの食堂ボランティアでは、毎月月末の水曜日に、大和高田市の地域の小学生から 18 歳までの子供を対象として、食事を無償でふるまい、食後に学習支援を行うお手伝いをさせていただいています。

この活動は、食事の準備や学習支援だけでなく、家庭や学校以外の安心できる居場所づくりも目的としています。子どもたちと会話しながら一緒に食事をとり、学習支援においても一方的に教えるのではなく、共に考えながら進めることを大切にしています。このような何気ない関わりを通して、少しずつ信頼関係が築かれ、子どもたちが安心して心を開き、相談できる場所になっていると感じています。

このように、活動を通して食事支援および学習支援にとどまらない包括的な支援を行うことで、子どもたちが心身ともに健やかに過ごすための一助となれていることを願っています。

活動に参加させていただくと、子どもたちと話したり遊んだりすることで、ボランティアさせていただいている方も元気をもらえます。学習支援をさせていただいているときに「そういうことか！わかった！」と笑顔で言ってもらえると、やりがいを感じてうれしい気持ちになります。また、スタッフの方々からは、子どもたちとの向き合い方や支援活動の重要性について多くを学ばせていただいております。今後も子どもたちとのコミュニケーションを大切にしながら活動に参加させていただきたいと考えております。

寺塾

医学科 2年 田中文康

寺塾は元々、奈良医大生のサークルであるチーム PRE ドクターズが「教育を通して地域に貢献する」ことを理念に掲げて運営していた個別指導塾です。チーム PRE ドクターズのメンバー減少を理由に社医研が運営を引き継ぎ、およそ二年が経過しました。

私たち運営メンバーはチーム PRE ドクターズが掲げていた理念に基づき、寺塾をより良い塾にするべく、利用者対応や講師のシフト調整、会計業務をこなしています。また、議論もメンバー間で活発に行われ、様々な改良がなされています。例を挙げると、今まで建物外にあったトイレの建物内の設置、利用者や講師の意見を募るためのアンケートの配信、運営業務の明確化が挙げられます。

寺塾は社医研の他のボランティア活動と違い、利用者や講師とのお金のやりとりが直接発生する活動です。そのため、運営にはより一層の責任感が求められます。私たち運営メンバーは、一つのミスが利用者や講師からの信用を失いかねないことだと肝に銘じて業務にあたっています。

一方でこの活動も、他と同様に人との繋がりが重要な活動であると私は考えています。利用者に真摯に対応し、講師ともよく話し合うことを何より重要視しています。利用者にも講師にも全員、寺塾で良かったと思っていただけるように、引き続き精進してまいります。

最後となりますが、私たちを信用して寺塾を利用してくださる生徒および保護者の皆様、講師として力を借りている学生の皆様、寺塾の活動にご理解くださる地域住民の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも温かい目で見守っていただきますよう、何卒よろしく願いいたします。

なかよし保育園ボランティア

医学科3年 藤原奈津希

なかよし保育園は、奈良県立医科大学および附属病院に勤務する職員のお子さんが通う保育施設です。私たちは放課後の17:00～18:30まで、なかよし保育園で保護者の方のお迎えを待つ子どもたちと一緒に遊ぶ活動を行っています。

遊びの内容は、おままごとやレゴなど多岐にわたります。特に、保育士の先生方が手作りされたおもちゃで遊んだり、子どもたちが仲良く順番を守りながら遊ぶ様子を見たりする中で、先生方の工夫や保育のあり方に多くの学びを得ることができました。

活動への参加回数が増えるにつれて、子どもたちが私たちの名前を覚えて呼んでくれるようになり、参加する楽しさをより強く感じるようになりました。また、子どもたちの笑顔に直接触れることができることに、大きなやりがいを感じています。

最後になりましたが、なかよし保育園の園長先生をはじめスタッフの皆様、学生の活動を温かく見守ってくださる保護者の皆様、そして何より保育園に通う子どもたちに、この場をお借りして心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

レジンアクセサリーセッション

看護学科2年 竹下咲羽

レジンアクセサリーセッションでは、主に子ども食堂などで子どもたちに配るレジンを使ったアクセサリー作りを行います。参加者の多くは大学からレジンに触れた人ばかりで、毎回参加者同士で模索しながら良い作品が作れるよう励んでいます。

この活動はコロナ禍で多くのボランティアへの参加が制限され、このままでは部としての交流ができないだけでなく部内の交流も無くなってしまうことを危惧した先輩によって始まった活動です。今年は昨年よりも参加者が増え、モールド（レジン液を流す型）の数を増やしたり、参加者が様々なアイデアを出してくれたりしたおかげで作品のクオリティも上げられたのではないかと思います。また、制作中は楽しくお喋りしていることが多いため、部員同士の交流の時間ともなっています。

子どもたちが喜んでアクセサリーを身につけてくれる姿は、私たちの作品制作のモチベーションになります。今後もより良い作品が作れるよう精進していきたいです。

手話の会

医学科3年 藤原奈津希

手話の会では、毎週水曜日の昼休みに大学内の教室で昼食をとりながら、皆で手話を学んでいます。

今年度から活動内容がより充実し、手話で表現したい単語が思いついた際には、積極的に調べながら実際に使ってみるという形に進化しました。後輩の力も大きく、彼らが学びたい手話単語を調べて皆の前で発表してくれることで、上回生とは異なる視点から手話に関する知識を深めることができました。

本活動に参加する学生は全員聴者であるため、手話を日常的なコミュニケーション手段として用いる聾者や難聴者の方々が開催するイベントや、橿原市手話サークルの活動に参加し、実際に使用されている手話を学ばせていただきました。

外部イベントに参加する中で、聾者の患者さんが病院を受診する際、日本語で病状を正確に説明することが難しい場合には、手話通訳士の方とともに来院されることが多く、手話が分かる医療者が増えることを望んでおられると知りました。現在少しずつ学んでいる手話や聾文化が、これから医療者となる私たちにとって大きな糧となり、将来地域医療へ還元できるよう、これからも精進してまいりたいと思います。

最後になりましたが、聾者と聴者の垣根を越えて交流してくださった奈良県聴覚障害者協会青年部の皆様、温かく迎え入れてくださった橿原市手話サークルの皆様、そしてこの手話の会を守り続け、地域の方々との交流を繋いでくださった先輩方に、心より御礼申し上げます。

学祭

医学科 4 年 垣本月海

今年度の大学祭において、社会医学研究会は計 24 名の部員が協力し、出店企画に取り組みました。メニューの検討からや計画、衛生管理、運営方法に至るまで部員で話し合い、準備を進めました。本年度は昨年度に引き続き、エッグワッフルを販売しました。

大学祭は、学内の学生との交流にとどまらず、地域の方々とも直接関わることのできる貴重な機会です。私たちは多くの方に足を運んでいただけるように、商品の大きさや価格設定、ラッピング、トッピングの豊富さなど多角的な視点から工夫を重ねました。

部員同士が密に連携しながら調理および販売を行い、2 日間で多くの方々にご来店・ご購入いただきました。ご来店くださった方々からは温かいお声を多数頂戴し、部員一同、大きな達成感を得ることができました。また、昨年度に引き続き足を運んでくださった方々にお声かけいただく場面もあり、私たちの継続的な取り組みを通して地域の皆様とのつながりを築くことができていることを実感しました。本活動を支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。

畝傍山キャンパスでの初めての開催ということもあり、昨年度を上回る多くの方々にご来店いただきました。参加した部員数も昨年度より増加していましたが、来客のピーク時には対応が追いつかなくなりそうな場面もありました。そのような状況においても、シフト外の時間帯にも自主的に出店運営に協力してくれた部員も多くおり、準備から運営まで尽力してくれた部員に感謝するとともに、部内での協力体制の強さを改めて実感しました。

出店の立案から運営までを主体的に担った経験は、協働力や計画性、判断力を養う貴重な機会であり、今後の様々な活動の中で活かされるものと考えております。

来年度以降も大学祭での出店を通して、学生間の交流を広げるとともに、地域の方々とのつながりをさらに深めていきたいと考えております。今後ともご指導・ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

あとがき

代表を引き継いで早数ヶ月。今年度も無事、社会医学研究会の活動報告書を発行することができました。各活動の代表者の皆さんにはお忙しい中、執筆をお引き受けいただき誠にありがとうございました。本報告書を通して、日頃よりお世話になっております北原教授やOB・OGの皆様、そして部員の皆さんに、現在の社会医学研究会の活動の様子をお伝えできれば幸いです。

今年度も多くの部員が様々な活動に参加し、それぞれの立場で地域の方々と関わる機会を得ることができました。活動の中では、地域の方々の温かさに触れると同時に、医療と社会が密接に関わっていることを改めて実感する場面が多くありました。また、後輩たちが主体的に活動に参加し、新しい視点から部を支えてくれていることを心強く感じています。

私自身、一部員として多くの活動に関わる中で、学生の立場だからこそ地域の方々と気軽に関わり、学ばせていただける機会があることの大切さを実感しました。社会医学研究会での経験が、部員一人ひとりにとって将来医療者として働く際の糧となることを願っています。今後も先輩方が築いてくださったこの活動を大切にしながら、次の世代へと繋いでいけるよう部員一同励んでまいります。

最後になりましたが、社会医学研究会の活動を支えてくださっている北原教授をはじめ、OB・OGの皆様、外部団体の皆様、そして日々活動に参加してくれている部員の皆さんに心より感謝申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

2026年3月

社会医学研究会

医学科3年 藤原奈津希